

(様式2)

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
56	川崎市立新作小学校	栗田 嘉也

学校教育目標	今年度の重点目標
「大地に根ざし、なかよくのびる すくすくまっ子」 ・自ら学び進んで創造する子 ・思いやりのある明るい子 ・健康でたくましい子	・いじめの傍観者をつくらない未然防止と早期解決に向けた取組 ・不登校児童生徒の学習支援の拡充 ・高学年における教科担任制の実施と教員の専門性を生かした配置 ・外国語教育研究推進校として児童のコミュニケーション力を育む取組

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 いじめのない安心安全な学校	管理職・支援コーディネーターとの日常的な連携と、市教委のリーフレットに基づいた対応の徹底 いじめの傍観者を作らない学級づくり 早期対応と再発防止	いじめ対策会議を開催し迅速な聞き取りと指導、保護者への報告を行った。傍観者を作らない意識付けにより児童からの情報提供が増えた。例外なく対策会議を実施した。	日常的な道徳教育に加え、差別や偏見をなくし多様性を認め合える人権教育を推進していく
2 危機管理体制の構築と徹底	災害時の避難手順と不審者侵入時のマニュアルの徹底と職員の対応力強化 熱中症の未然防止	児童が避難訓練に整然と参加し、意識の高まりがみられた。毎週の朝会等で整列などの集団行動を学ばせることができたことも大きい。 校外学習の計画見直しを進めている。	バス代高騰の折、今後は校外学習を公共交通機関を利用することが増える。その場合の安全管理のための注意事項を整理したい
3 校内研究による授業改善とOJT	外国語・外国語活動を中心に、相手意識をもったコミュニケーションを育むため、活動場面を大切に授業スタイルの確立	外国語・外国語活動の授業研究と職員研修による授業スタイルの確立、活動重視の取組を他教科にも生かされるようにしたい	協働的な学習と個に応じた指導を緻密に進めるため、引き続き授業改善とGIGAの適切な活用を進めていく
4 日常的な授業改善とICT活用	教科担任制の導入と教材研究に費やす時間確保により、専門性を生かした日常的な授業改善	活動主体の授業が展開されているが、落ち着いて授業に取り組むことができない場面も見られた。学年で指導計画を共有し、場の設定も一貫して行っているが、児童によっては45分間持続できない様子も見られた。	児童の目線で魅力のある授業を考える、学習のルールとマナーを徹底する、個別最適な学びの場を提供する
5 40周年にむけて地域との連携強化	地域保護者と連携して40周年記念事業を完成させる キャリア教育の場としての40周年事業	PTA役員との連携から、地域協力者との絆を作り、40周年記念事業実行委員会を組織することができ、学校行事にも応援をいただいた	通学路の危険箇所調査が進められたが、私有地等安全対策の実現が難しい。引き続き関係機関に働きかけていく
6 情報公開とオンライン化の推進	google formを活用したDX化 ミマモルメ 学校WEBの活用 学校より学年より等すべての配付文書の電子化と公開化	保護者との連絡にミマモルメの活用、職員間のクラスルームの活用、アンケート等調査のDX化を進め、働き方改革にも結び付いた	配付書類のDX化を推進する。児童への情報モラル教育の徹底を継続する。
7 特別支援教育の理解と推進	児童の社会的自立を目指した交流支援と、個別最適な学びの提供	支援を必要とする児童の個別最適な学びを考え、保護者の協力を得ることができた。社会的自立への目標設定を意識していきたい	特別支援教育の研究者との連携による教育課程の監修と職員研修、保護者が相談しやすい環境づくりを進めていく
8 ゆとりをもって児童に向き合うための教職員の働き方改革	保護者・地域の協力の要請、専科教員・非常勤講師配置により、児童に向き合い、授業準備に集中できる環境づくり	面談の勤務時間内の実施、土日PTA行事への参加方法など、保護者の理解と協力が得られた。指導員のリーダーシップによる施設開放が進められた。	校務分掌の徹底的な整理と文書の電子化、定例会議に頼らない情報交換の方法を模索している。効率化から生まれたゆとりを授業の充実に向けた。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて
----------	------------------------

<p>40周年では児童の生き生きとした姿を見ることができ、通学路であいさつもしてくれる。引き続き地域全体で見守っていききたい。40周年事業を通して学校地域の連携と、シンボルツリー植樹をはじめとした環境整備が進んだ。</p>	<p>児童支援コーディネーターを中心とした問題の早期発見により組織的に対応することができた。40周年事業を通して地域との絆を深め、学校の主体的な決定を支えて頂いた。外国語を中心とした授業改善を外部講師に協力を仰ぎながら進めることができた。デジタル化を推進する一方で、基本的なリタレシーや読書といった教育の不易の部分を大切にしていきたい。また、災害時に整然とした集団行動がとれるように落ち着いた学習・生活を送ることができるようにしたい。</p>
---	---